

鉄道ピクトリアル

2020年8月号増刊 Vol.70 No.8 通巻No.976

<特集> 小田急電鉄

■表紙 ロマンسカーの最新鋭GSE70000形 ……焼田 健

入生田一箱根湯本 2020-6-29

キヤノンEOS5DsR EF16-35mm F4L 絞りf6.3 タイム1/1600 ISO250

■グラフ

Odakyu Special (1~8・198~199ページ)

飯塚卓治・眼目佳秀・綾部勝巳・松本英一郎・河原慶明

……………杉崎健一・浜村正弘・伍賀溪介・白井 剛・今井清一

……………戸塚光弘・関 周一・梅沢賢治・川井一彦・朝日敬一郎

……………森田 宏・千田宏喜・進藤 匡・早川昭文

地方私鉄で活躍する元小田急の車両 (197ページ)

小田急の直通運転 (200~201ページ)

NOSTALGIC ODAKYU 思い出の小田急カラー (202~203ページ)

2018年に引退したLSE (204ページ)

*

川島常雄氏が見た往年の小田急風景 ……構成：編集部… 81

小田急1900系の履歴 ……解説：澤内一晃… 86

小田急 思い出の行楽臨時列車 ……構成：編集部… 88

1970~80年代 興味ある運転のシーン ……構成：編集部… 92

地下鉄千代田線直通車 小田急9000形の34年 ……構成：編集部…190

橋上駅舎時代の相模大野駅 ……大沼 一英…196

運用面から見るデハ1300形 ……坂戸 直和…205

■本文

今月の話題：小田急電鉄 ……編集部… 9

総説：小田急電鉄 ……藤田 雄介… 10

小田急電鉄の鉄道事業を語る ……五十嵐 秀・板谷和也… 19

営業設備とサービス ……諏訪部康太郎… 25

小田急電鉄のインバウンドをめぐる取り組み ……関 隆 宏… 30

輸送と運転 近年の動向 ……山崎 直… 34

乗務区、駅務のあらまし ……長谷川伸一・重森直人… 47

車両総説 ……板垣 匡俊… 52

GSEの構想からデビューまで…鈴木剛志・津村哲広・岩崎哲也… 60

信号保安・通信設備の概要 ……中村 健作… 68

運輸司令所の業務と役割 ……米田 将人… 76

車両所・検車区の概要 ……中口 勝己… 95

線路と保線 ……兜 俊彦…104

電力・変電設備の概要 ……及 川 哲…108

小田急1900系の履歴 ……澤内 一晃…112

イコライザーからエアサスに至る 台車の変遷 ……大幡 哲海…122

小田急1600形の残影—近江200・220形の履歴を探る—

……………岸上 明彦…127

坂戸直輝 戦前・戦後の日記から往時の小田急を読み解く

……………坂戸 直和…132

小田急電鉄 列車運転の変遷とその興味 ……杉田 弘志…144

1978年 小田急⇄営団地下鉄千代田線 乗入れ開始の頃の思い出

……………梅沢 賢治…172

1980年代 小田急通勤形車両 ……稲葉 克彦…184

小田急電鉄ホームに残る古レール柱のバラエティ ……大沼 一英…208

複雑線化進展による江ノ島線への波及効果 ……寺西 知幸…216

小田急電鉄現有車両プロフィール&データファイル2020

……………橋本 政明…225

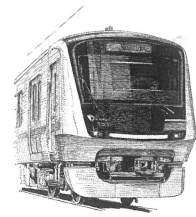
[現有車両主要諸元表・車歴表・編成表 ……290]

後部車から ……322

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru

今月の話題



カット：松本一雄

小田急電鉄

小田急電鉄は新宿を起点に東京都西部、神奈川県に120.5kmの路線網を展開する大手民鉄である。戦後激増した沿線の通勤・通学輸送に加え、箱根、江の島をはじめとしたわが国有数の観光地を沿線に持ち、特急ロマンスカーによる観光客の輸送が小田急の鉄道事業における大きな特徴となってきた。戦後、箱根、江の島の施設整備をいち早く進めるとともに、1950年代に登場したSE車3000形は、斬新なスタイルとともに、当時の狭軌鉄道世界最高速度を樹立したことは日本の鉄道史にとって輝かしい出来事であり、社会の注目を浴び、鉄道技術発達に高く貢献した。その後小田急ロマンスカーはNSE車3100形、LSE7000形をはじめ数々の名車を生み出し、2018年にデビューした最新型GSE70000形へと引き継がれてきたのである。

一方、通勤・通学輸送については、戦後の沿線宅地開発により、都心に向かう輸送需要が想定を上回るほど増加を呈し、1960~70年代の通勤混雑は激化の一途で、その改善を目指して多大な労力が払われてきた。1978年には地下鉄千代田線と相互直通運転を開始したが、抜本的な改善策として複々線化の実現が小田急の悲願となり、事業が進められた。こうして、2018年3月に所期の計画であった複々線事業が完成し、代々木上原—登戸間の複々線を最大限活用して大規模な輸送改善が図られ、列車の増発、所要時間短縮、混雑緩和を達成、小田急の歴史は新たなステップへと移っていく。今日では下北沢、海老名など沿線中核駅周辺のまちづくりと連携した再整備、その他いっそう魅力的な鉄道に向けたさまざまな施策、さらなる安全・安心輸送の対応が展開されており、今後の小田急がどう飛躍を遂げていくか注目していきたい。2021年春の鉄道ミュージアム開設も楽しみである。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Mehrlicht Ochanomizu Bldg., Kanda
Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan